

河川堤防の強化に関する技術検討会(第4回)
議事要旨

日時:令和6年10月23日(火曜日)

場所:書面開催

【技術比較表の公表】

- 公募要領で示されている要件である「既存の堤防の性能を毀損しないこと」と「越水に対する性能を有すること」で構成される設計の考え方が技術比較表に記載されるのは良い。その要件を達成するために必要な設計上の基本事項を分かりやすくするとより良い。(藤田委員)
- 技術比較表の記載水準を合わせるため、次回公募では監修責任者の論文査読のような枠組みも検討した方が良い。(藤田委員)
- 技術比較表に公募要領で示されていない外力条件(例:流木の衝突)が記載されているが、記載に至った経緯を調べておくこと。(岡村委員)
- 「使用する場合の条件」はどのような場面で使用する条件なのか分かりやすくする必要がある。(田島委員)
- 技術比較表(要約版)は使用目的を踏まえ表現を分かりやすくしてほしい。(田島委員)
- 変状連鎖図が技術比較表に示されることで、他技術の応募者への理解が進むことが期待できる。(戸田委員)

【次回公募に向けた課題の抽出】

- 提案者や評価者が困らないよう次回の公募では、工学的に理解しにくい技術用語を、分かりやすい用語に置き換えることを進めてもらいたい。(藤田委員)
- 変状連鎖図を作成することは、技術開発や施工管理、維持管理に活用する一連の流れを定着させる上で重要であり、経験の早回しにも繋がるため公募要領で変状連鎖図の重要性が伝わるようにしてもらいたい。(藤田委員、清水委員)
- 技術公募で得られた課題や知見を公開することで、応募技術のレベルアップに繋がるのではないかと。(前田委員)
- 提案者の実験が適切に行えるよう、公募要領の条件を分かりやすく記載した方が良い。(岡村委員)

【その他】

○民間企業や教育機関・研究機関が堤防技術の向上のために参画する価値のある環境の整備構築に向け、引き続き取り組みを積み重ねてほしい。(藤田委員)

○粘り強い河川堤防の施工の有無に関わらず、大きな外力や越水が起こった際の変状等の把握や継続的な調査分析を行うことは重要であり、改善サイクルの見える化が大事である。(藤田委員)

○治水対策上の位置付けを整理し、技術の活用先の検討を進めてもらいたい。(藤田委員)

○多くの方が堤防に関心を持って頂くことが、技術開発を継続していく上で重要である。施工後の維持管理、モニタリングや点検、洪水による効果検証を行い、結果を公表していく仕組みも必要である。(前田委員)

○組織としてスタッフを確保し技術を継承する仕組みを構築しているかという視点も大事である。(山田委員)

以上